

大阪府河内長野市におけるツバメの標識調査と
イソヒヨドリによる捕食の増加について
福岡賢造

地元で野鳥の観察を始めてから、1980年、1986年と、河内長野市の繁華街と農村部でツバメの調査をすることがありました。そこで参加の方々にいろいろな質問を受けたことで、みずからの無知を知り、こうした質問に答えたく、バンダーの資格を取ることを決意しました。当時、大阪におられた上田恵介さんにご指導を仰ぎ、中川宗孝さんや藤田勉さんにも教えを請うて、ようやく1989年に種限定のバンディング資格を取得。河内長野市千代田地区の商店街で、ツバメのバンディングを始めました。

調査地は大阪府の西南部、河内長野市の中心に程近い、南海電鉄高野線千代田駅の東西、約1.3kmに及ぶ商店街です。年によって異なりますが、多い年で54巣が架巢され、少なくとも調査開始当初は、比較的密にツバメの営巣が見られました。ツバメの営巣が見られた各店舗の店主に了承を得た上で、成鳥については周辺にかすみ網を張ったり、夜間にタモ網を用いて捕獲、雛は日齢14日前後を見計らって手取りで捕獲し、成鳥は各部を測定後放鳥、雛は巣に戻しました。

2004年～2014年（2013年は未実施）の10年間のデータについて集計したところ、44～72%の成鳥を捕獲した中で、各年24～49%が再捕獲個体であり、平均するとオス45%、メス35%と、雄の再捕獲率が高くなりました。さらに再捕獲個体の中で、同じ巣に戻って繁殖したものの42%で、雌雄別に見るとはオス43%、メス41%でわずかにオスの方が高くなりました。また、つがいで再捕獲できたのべ131ペアに対して、翌年にもつがい関係を維持して繁殖したものは6ペアに過ぎませんでした。さらに巣立った雛が、この調査地に戻って繁殖した事例は1%に満たないことも判明しました。

以上のような成果を得た千代田地区の商店街ですが、2007年頃から営巣数の減少が見られるようになり、2018年にはついに繁殖が確認されなくなりました。今回のご報告では2008年から2018年までの11年間を通してこの減少の経緯を追い、至近要因になったと思われるイソヒヨドリによる捕食の生じ方をご紹介します。